



さんすいじんけいりんもんどう

新発見！『三酔人経綸問答』の草稿

明治を代表する言論人・思想家である中江兆民（1847-1901）の『三酔人経綸問答』（明治20〔1887〕5月刊）の草稿が発見されました。

文部科学省の大規模学術フロンティア事業である「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」に取り組んでいる国文学研究資料館が、日本の古典籍資料の収集を進める中で東京の古書店より購入し、中江兆民の自筆部分を含むものであると確認したもので、これまで学界に知られてこなかった新出資料です。

中江兆民の主著である『三酔人経綸問答』は、南海先生のもとを訪れた洋学紳士と豪傑君との間でくりひろげられる、遅れて世界史の舞台に登場した極東の小国＝日本のあり方をめぐる議論を展開したものです。

今回発見されたのは、一旦浄書された草稿に更に中江兆民が手を入れたもので、現行本文の末尾の約580字を欠きますが、ほぼ完備した最終稿に近い草稿です。また、本文は無罫の半紙に細筆で墨書され、それを袋綴じにして二冊に分けたものです。

この草稿は、中江兆民による推敲の過程をつぶさにうかがうことができる、明治日本の思想と文化を研究する上で極めて貴重な資料です。

なお、この草稿は、国文学研究資料館が高知市立自由民権記念館と共催する企画展「中江兆民と『三酔人経綸問答』－1世紀の時をへて出現した中江兆民自筆草稿－」（自由民権記念館で10月8日より12月25日まで開催）において一般公開するとともに、今後、全文画像を国文学研究資料館の近代書誌・近代画像データベースから公開する予定です。

草稿の詳細については、10月8日に高知市立自由民権記念館にて開催する講演会において国文学研究資料館教授の谷川恵一が報告します。

○講演会「中江兆民と『三酔人経綸問答』自筆草稿の意義」

日時：平成28年10月8日（土）午後2時00分～午後4時00分

場所：高知市立自由民権記念館（高知県高知市棧橋通4丁目14-3）

報告者：国文学研究資料館 教授 谷川恵一

○企画展「中江兆民と『三酔人経綸問答』－1世紀の時をへて出現した中江兆民自筆草稿－」

場所：高知市立自由民権記念館2階特別展示室

日程：平成28年10月8日（土）～12月25日（日）

開催時間：午前9時30分から午後5時まで（入場は午後4時30分まで）

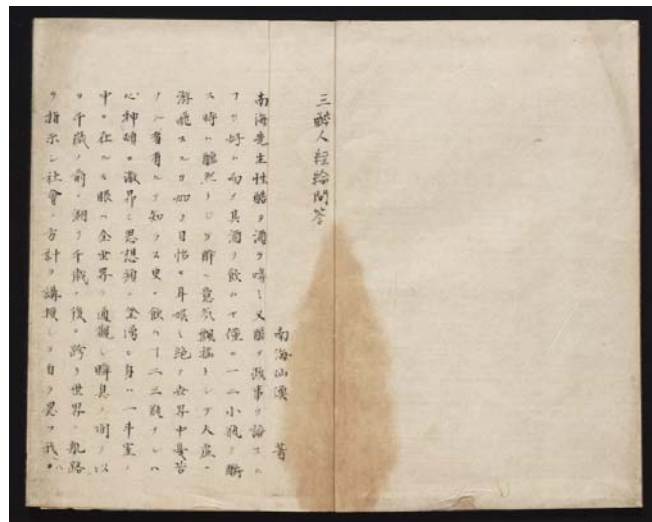
休館日：月曜日（ただし祝日または振替休日に当たる場合は開館し、翌日閉館します。）

祝日の翌日（土・日・祝と重なる場合は開館します。）

※常設展観覧料（320円）が必要になります。



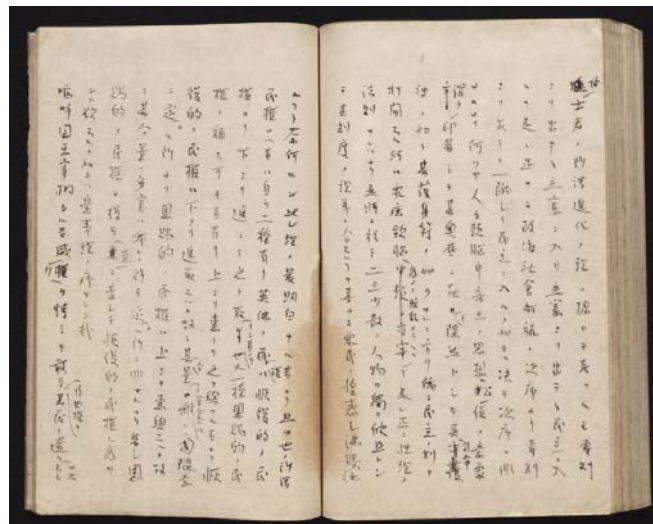
『三酔人経纶问答』上



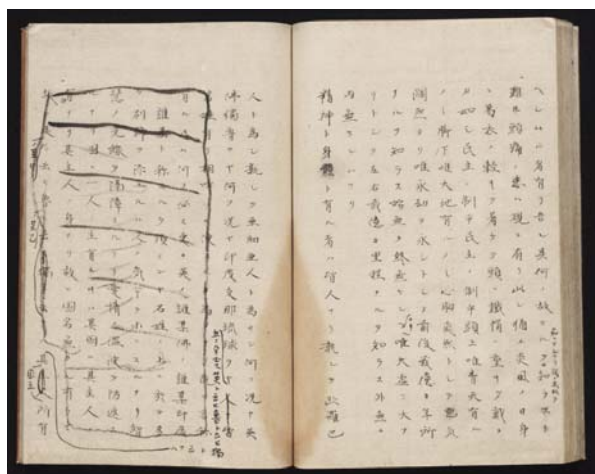
『三酔人経纶问答』冒頭（浄書）



『三酔人経纶问答』下



『三酔人経纶问答』の下書き部分



『三酔人経纶问答』の推敲の跡

【報道関係からのお問合せ／取材等のお申込み】

国文学研究資料館管理部総務課企画広報係

TEL：050-5533-2910

FAX：042-526-8604